

子どもにやさしいまちづくりの推進について

国立市 子ども家庭部 児童青少年課

国立市子ども基本条例では…

第4章 子どもにやさしいまちづくりの推進

第13条 市は、子どもが自分の気持ちや考えを表明することができるよう、必要な環境を整備するものとする。

2 市は、施策を実施するに当たり、子どもの意見を聴くとともに、その意見については、子どもの成長及び発達の段階、個性等を踏まえて尊重し、子どもにとって最もよい事を第一に考えて施策に反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

3 市は、市民、育ち学施設の関係者及び事業者（以下「市民等」という。）に対し、子どもが自分の気持ちや考えを表明できる環境を整備するよう働きかけるとともに、これを積極的に支援し、及び市民等と連携するよう努めるものとする。

⇒**全ての施策において、子どもの意見を聴く必要がある**

国立市子ども基本条例では…

第6章 子どもに関する施策の推進と検証

(子どもに関する施策の推進)

第24条 市長は、子どもにやさしいまちづくりを推進するための計画を策定するものとする。

2 前項の計画は、国立市子ども総合計画をもって充てる。

(子どもの権利に関する検証)

第25条 市は、この条例に基づき、市内において子どもの権利が保障されているかどうかについて、子どもを含め市民の意見を聴いて検証するものとする。

⇒計画の検証が必要

※事務的な検証のみならず、より一層、子どもの意見を聴き施策に反映していくための仕組みづくりが必要

国立市子ども総合計画審議会条例では…

(所掌事項)

第2条 審議会は、市長からの諮問に応じて、次に掲げる事項について審議し、その結果を市長に答申する。

- (1) 子ども総合計画の策定に関すること。
- (2) 子ども総合計画の推進及び評価に関すること。

⇒**本審議会において、審議・答申いただく**

子どもの声を聴く仕組みについて

「子どもの声を聴く」必要性について

- ・すべての子どもは、自分らしく生きる・育つ権利が保障されるべき
- ・子どもが自分らしく生きる・育つことができるか、
このことは、子どもの気持ちや考えを聴かなければ、把握することはできない
- ・子どもが自分らしく生きる・育つために必要なことは何か、を考えるためには、
子どもの気持ちや考えを尊重し、その子どもの最善の利益を考えなければならない

➡➡ 子どもの権利の保障は、子どもの声を聴くことから始まるもの

子どもの声を聴く仕組みについて

「子どもの声を聴く仕組み」の必要性について

子ども基本条例作成時、
児童青少年課職員が子ども達のいる場所に赴き、直接対話によって声を聴き続けてきた

➡ 多くの子どもたちが、大人（家族や学校、地域等）に対し、
もっと自分たちのことを見てほしい
もっと自分たちの声を聴いてほしい
と思っていることを知るに至った。

➡➡ この気持ちに寄り添いながら、最善の利益を具体的に考えていくためには、
ひきつづき子ども達の声を聴き続けていかなければならないが、

「国立市子ども基本条例」の精神に基づき、児童青少年課のみならず
全庁で取り組んでいくことが必要。

➡➡➡ 恒常的に子どもの声を聴き続けていくことができる仕組みが必要

子どもの声を聴く仕組みについて

「仕組み」とは何か？

① 子どもの気持ちや考えを、大人が傾聴し、尊重するための方法・環境の整備

子どもに係る部署や組織等の人間が、子どもと対話するための

- ・マニュアルや姿勢
- ・環境設備の在り方

等を整える

ex. ワークショップ、意見交換会等の実施に活用、ほか

メリット：効果的な対話の実現により、より気持ちや考えを深く理解できる

デメリット：1度に対話できる人の数に限りがある
対話する大人の素養等に影響を受ける

子どもの声を聴く仕組みについて

「仕組み」とは何か？

② 子どもがいつでも相談できるツール・環境の整備

子どもが悩んだとき等に、いつでも相談できる仕組みを構築する

ex. Line相談、相談チャットボット等（ギガ端末向けアプリ構築等）

メリット：子どもが一人で悩みを抱える状況から解放させられる

デメリット：ツールの構築や利用に予算が必要となる
夜間帯の相談等に対応するための体制等が必要

※相談＝意見表明権の尊重 か、整理が必要

子どもの声を聴く仕組みについて

「仕組み」とは何か？

③ 子どもが施策等に対し積極的に意見することができる仕組み

各種施策等に対し自由に意見することができるオンラインページ等の構築
自由な意見・気持ちを発することができるフレームの設置 など

メリット：市政に対する参画のハードルを下げられる
多数の意見を聴取することが検討できる

デメリット：ツールの構築や利用に予算が必要となる
子どもの気持ちや考えの深堀・寄り添いがあまりできない
自由意見を整理するために労力がかかるか

子どもの声を聴く 仕組み

子どもが主体的な
声が出せる

大人と対話できる
環境（仕組み）

様々な対話が、市役所各部署の創意工夫
によって展開されるための仕組み